

公益社団法人フードバンクかながわ 2024 年度事業報告

(1) 基本方針

個人や団体・企業から消費するには十分安全であるにもかかわらず廃棄されてしまう食料の寄贈を受け、支援を必要としている生活困窮者等に非営利団体を通じて適切に配るフードバンクシステムの確立をめざします。

地域の「たすけあい」「支え合い」「分かち合い」、相互扶助の社会づくりをめざすとともに、社会の食品ロス削減および社会福祉の増進に貢献します。

(2) 食料の収集・配布を通じた、生活困窮者等への支援事業

①神奈川県全域の支援団体（行政、社協含む）が利用しやすくするために物流インフラの強化・拡充を図ります。

◆◆パルシステム神奈川及びNPO法人セカンド・リゲ 神奈川の協力で冷凍食品の中継拠点10カ所を増設しました。

②食品関連企業や支援活動団体、行政機関、社会福祉協議会等の交流の場を設けます（オンライン）

◆フードバンク浜っ子南と共催で地域フードバンク交流会を開催（ハイブリッド）し、15団体25名が参加。また、休眠預金活用事業の実行団体5団体（1都4県）の活動交流を行いました。

③支援活動団体や行政機関、社会福祉協議会のネットワークの構築を図ります。

◆フードバンクかながわから食品を提供している食支援団体は、前年から38団体増え計404団体（内行政・社協関係66団体）となりました。

(3) 食品ロスの削減、フードバンク等に係る調査研究・啓発・政策提言を目的とする事業

① 冷凍品を含む余剰食品等を寄贈いただく企業等と併せて、フードドライブの回収拠点（個人寄贈受付）を拡大します。

◆食品を寄贈いただく事業者が20事業者増え、318事業者となりました。また、フードドライブの回収拠点は、純増で4カ所増え、355カ所となりました。

② 冷凍食品の取扱いを拡げるために、神奈川県及び周辺都県のコールドチェーンの確立をめざし、地域フードバンク団体や食支援団体等の連携・ネットワークを強化します。

◆冷凍食品の取扱いは1都4県に拡がり、休眠預金助成等を活用し冷凍車両4台増、大型冷凍庫5台増、支援団体への無償貸与用の冷凍ストッカーが51台増とコールドチェーン確立にむけ前進しました。

③フードバンクに関わる政策研究をまとめ、会員（団体）を通じて政策要望等を行います。

◆神奈川県生協連が実施している神奈川県議会への予算要望ヒアリング（自民党、立憲民主党、公明党、共産党）に参加し、フードバンクに関わる要望等を伝えました。

④フードバンクかながわにおける取扱品の範囲（パン・冷凍品等）の拡大をすすめます。

◆冷凍食品はマルハニチロ他10社から69,724kg（前年比143.3%）の寄贈、また、パンは山崎製パンから9,298kg（前年比107.9%）と拡大がすすみました。

⑤食品ロスの削減にむけ、家庭での食べ残しや過剰除去等を減らすための啓発、学習活動をすすめます。

◆体験研修・学習会を82回行い2331名の参加がありました。

⑥会員団体内部でのフードバンク活動の認知度アップを図ります。

◆正会員団体の部内報等でのお知らせ、また、新入職員の体験研修の実施などに認知度アップの取り組みを行いました。

(4) 地域社会における市民の相互扶助を増進することを目的とする事業

① 食の支援を必要としている方々への支援活動（非営利団体等）がさらに拡がるよう神奈川県民にむけ、フードバンクを活用した実践事例等の情報提供を行います。

◆フードバンクかながわのHPやSNSを通じて、また、神奈川県（SDGs）のHP等を通じて、情報提供をしました。

② 支援活動を実施している市民団体等の交流の場を設けます（オンライン）

◆フードバンク浜っ子南と共催で地域フードバンク交流会を開催（ハイブリッド）し、15団体25名が参加しました。

(5) 災害等の被災者に対する食料・生活物資等の支援事業

①神奈川県内の自治体と防災協定等を締結している団体会員（県生協連等）との連携を図ります。

◆1月29日神奈川県が開催した合同図上訓練に県生協連の大規模災害対策委員会の5名が参加し、県の市町村応援班から生活物資の供給と、物資輸送に関する相談対応や、県庁災害対策本部に常設して

あるMCA無線機で会員生協との通信連絡などの訓練を行いました。

(6) 勤労意欲ある生活困窮者等の就労支援を目的とする事業

① 横浜市就労支援準備事業の対象者の受け入れをすすめます。

◆ワーカズコレクティブ協会を通じて、1名の受け入れを行いました。

(7) 休眠預金活用事業の資金分配団体として実行団体への助成を行います。

① 一財) 日本民間公益活動連携機構 (JANPIA) がすすめる「原油価格・物価高騰、子育て及び新型コロナ対応支援枠」(緊急枠=1年間)として、「神奈川県及びその周辺の食支援ネットワーク発展のために冷凍食品を活かした支援食品のレベル向上」のテーマに沿った事業を行う団体(実行団体)に対して助成(総額:9,652.8万円)を行います。

◆報徳食品支援センターとのコンソーシアムで資金分配団体を担い、フードバンクふじさわ、スマイルネットありがとう(群馬県大泉町)、フードバンクTAMA(日野市)、日本ショーフアー協会(さいたま市)、フードバンク山梨(南アルプス市)の5団体を実行団体として選定の上、8000万円を分配し、当初掲げた計画通り事業を推進しました。

参考資料

2024年度事業報告【数値目標】

項目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度計画	2024年度実績
合意書締結事業者数	31社	81社	155社	219社	266社	298社	325社	318社
寄贈量(kg)	34,806	59,000	166,500	210,773	245,750	232,964	240,000kg	262,359kg
フードドライブ回収拠点数	63	140	160	299	344	351	360	355
寄贈量(kg)	4,475	15,963	43,500	76,401	119,480	117,642	110,000kg	114,412kg
合計寄贈量(kg)	46,394	96,968	210,173	287,174	365,230	350,606	350,000kg	376,771kg
中継拠点数	6	9	9	9	9	11	21	21
食品受取団体数計	93	157	215	281	326	366	380	404
合計配布量(kg)	39,781	91,905	195,000	270,261	367,883	342,036	350,000kg	371,374kg
賛助会員(団体・個人)	39団体 105名	113団体 205名	170団体 255名	204団体 291名	217団体 308名	227団体 318名	230団体 330名	241団体 329名
賛助会費(団体+個人)	231万円	535万円	598万円	639万円	691万円	718万円	730万円	7,587,000円
募金(寄付金)	608万円	558万円	2475万円	788万円	2251万円	1210万円	1200万円	15,699,304円

2024年度事業報告収支概要

① 収入計画 ※団体数・個人数は各年度末目標値

(円)

収入費目	2021年度実績	2022年度実績	2023年度実績	2024年度計画	2024年度実績
正会員会費 (団体数)	15,300,000 (11団体)	13,500,000 (12団体)	13,600,000 (12団体)	13,600,000 (12団体)	13,550,000 (12団体)
賛助会員会費 (団体数・個人数)	6,393,000 (203団体291名)	6,914,000 (217団体308名)	7,242,000 (227団体318名)	7,200,000 (230団体330名)	7,587,000 (241団体329名)
寄付金等	18,526,278	22,506,190	12,097,876	12,000,000	15,699,304
助成金・補助金等	18,527,266	22,670,650	19,279,359	114,128,000	124,778,479
寄贈食品受入額	37,063,003	50,485,629	54,097,000	60,000,000	115,583,733
事業収益(就労支援)	406,000	326,780	411,542	200,000	186,356
固定資産受贈益振替額・利息			1,061,919		748,714
合計	85,573,291	116,403,249	107,790,616	207,128,000	278,133,586

② 支出計画

(円)

支出費目	2021年度実績	2022年度実績	2023年度実績	2024年度見込	2024年度実績
人件費・委託費・助成金	19,962,228	26,515,283	25,129,574	118,651,500	117,321,920
物件費	15,124,813	25,749,799	18,084,823	16,648,500	17,610,566
寄贈食品払出(物件費)	47,613,203	63,737,429	63,789,220	70,000,000	142,588,133
合計	82,700,244	116,002,511	107,003,617	205,300,000	277,520,619